

教科名	技術・家庭科	校 種	中学校
-----	--------	-----	-----

科 目 の 配 当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など、授業の形態
1 年	技術・家庭	必	2	講義、実験、実習によって展開 実習は教員1名、助手1名で実施
2 年	技術・家庭	必	2	講義、実験、実習によって展開 実習は教員1名、助手1名で実施
3 年	技術・家庭	必	1	講義、実験、実習によって展開 実習は教員1名、助手1名で実施

科目名（教科名）		技術家庭（技術家庭）				
学年		1	単位数	2	必修・選択・展開	必修
目的	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を身に付ける。					
学 期	授 業 の 項 目			内 容		
1 学 期	<家庭分野> B編 衣食住の生活 1章 健康と食生活 2章 何をどれだけ食べたらよいか 3章 調理と食文化 6章 私たちの住生活			・食事の役割、健康に良い食習慣 ・食品に含まれる栄養素、1日分の献立作成 ・食品の選択と購入 ・地域の食文化 ・調理の基礎 ・肉・魚・野菜の調理 ・住まいの働き ・家族が暮らしやすい住まい方 ・健康を守る室内環境の整え方 ・家庭内事故の防止 ・災害に備えた安全な住まい方		
2 学 期	A編 家族と家庭生活 1章 家族・家庭や地域とのかかわり C編 消費生活・環境 1章 私たちの消費生活 2章 消費者の権利と責任			・家族の一員としてできること ・家族関係をよりよくする方法 ・家庭生活と地域のかかわり ・買い物の法律的な意味 ・いろいろな販売方法や支払い方法 ・消費者トラブルについて ・消費者を支える仕組み ・消費者の権利と責任		
3 学 期	<技術分野> 4編 情報の技術 1章 情報の技術の原理・法則と仕組み 2章 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決 3章 計測・制御のプログラミングによる問題解決			・情報の技術とは ・情報のデジタル化 ・情報通信ネットワークの仕組み ・情報モラル ・情報セキュリティ ・双方向性のあるコンテンツとは ・問題の発見と課題の設定 ・コンテンツの構想 ・コンテンツのプログラム制作 ～クラス伝言板システムの制作 ・問題解決の評価、改善 修正 ※生徒の実態に応じて内容、進度が変更されることがある。		
評価の 観点	【知識・技能】 40（%）	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。			・定期試験 ・実技テスト ・小テスト ・作品製作	
	【思考・判断力・表現】 30（%）	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。			・定期試験 ・ワークシート ・作品製作	
	【主体的に学習に取り組む態度】30（%）	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。			・ワークシート ・授業態度 ・課題提出	
評価の方法と割合	● 評価方法 : 定期試験における成績状況と製作品・提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験 50 % 平常点 50 %					
教科書・副教材等	● 教科書 : 技術・家庭「家庭分野」（教育図書） 新しい技術・家庭「技術分野」（東京書籍） ● 問題集 : なし ● 副教材 : なし					

科目名（教科名）		技術家庭（技術家庭）			
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	必修
目的	技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を身に付ける。				
学 期	授 業 の 項 目			内 容	
1 学 期	＜技術分野＞ 2 編 生物育成の技術 1 章 生物育成の原理・法則と仕組み 2 章 生物育成の技術による問題解決 3 章 社会の発展と生物育成の技術 1編 材料と加工の技術 1 章 材料と加工の技術の原理・法則と仕組み			・生物育成の技術とは ・作物の育成環境を調節する技術 ・作物の成長を管理する技術 ・動物を育てる技術 ・水産生物を育てる技術 ・問題の発見と課題の設定 ・生物の育成計画 ・成長段階に合わせた適切な育成・問題解決の評価、改善修正 ・生物育成の技術の最適化 ・これからの生物育成の技術 ・製図	
	2 章 材料と加工の技術による問題解決 3 章 社会の発展と材料と加工の技術 3編 エネルギー変換の技術 1章 エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み			・木材、金属、プラスチックの特性 ・材料に適した加工方法 ・丈夫な製品を作るために ・問題の発見と課題の設定 ・製作品の構想、設計、計画 ・木材加工実習 ・問題解決の評価、改善 修正 ・材料と加工の技術の最適化 ・これからの材料と加工の技術 ・エネルギー変換の技術とは ・回転運動を伝える仕組み	
3 学 期	2 章 エネルギー変換の技術による問題解決 3 章 社会の発展とエネルギー変換の技術			・発電のしくみと特徴 ・電気を供給する仕組み ・電気回路について ・電気機器を安全に使用するための技術 ・問題の発見と課題の設定 ・災害対応多機能ラジオの製作実習 ・問題解決の評価、改善 修正 ・エネルギー変換の技術の最適化 ・これからのエネルギー変換の技術 ※生徒の実態に応じて内容、進度が変更されることがある。	
評価の 観点	【知識・技能】 40（%）	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。			・定期試験 ・実技テスト ・小テスト ・作品製作
	【思考・判断力・表現】 30（%）	生活や社会の中から技術に関わる問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。			・定期試験 ・ワークシート ・作品製作
	【主体的に学習に取り組む態度】30（%）	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。			・ワークシート ・授業態度 ・課題提出
評価の方法と割合	● 評価方法：定期試験における成績状況と製作品・提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合：定期試験 50％ 平常点 50％				
教科書・副教材等	● 教科書：新しい技術・家庭「技術分野」（東京書籍） ● 問題集：なし ● 副教材：なし				

科目名（教科名）		技術家庭（技術家庭）			
学年	3	単位数	1	必修・選択・展開	必修
目的	生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を学ぶ。				
学 期	授 業 の 項 目		内 容		
1 学 期	＜家庭分野＞ B 衣生活・住生活と自立 第4章 私たちの衣生活 第5章 生活を豊かにする製作		・衣服の働き ・衣服の選択 ・衣服の手入れ ・持続可能な社会を目指して ・生活を豊かにする製作・・・エコバック		
2 学 期	＜家庭分野＞ A 家族・家庭と子どもの成長 第2章 幼児の生活と家族		・幼児の心身の発達、幼児の生活の特徴 ・幼児と遊び、幼児の遊びと発達のかかわり ・幼児の知育おもちゃの製作・・・テディベア		
3 学 期	＜家庭分野＞ D 身近な消費生活と環境 第1章 わたしたちの消費生活		・持続可能な社会をめざして（環境にやさしいくらしの実践） ・生活を豊かにする製作・・・エコたわし ※生徒の実態に応じて内容、進度が変更されることがある。		
評価の 観点	【知識・技能】 40（%）	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。		・定期試験 ・実技テスト ・小テスト ・作品製作	
	【思考・判断力・表現】 30（%）	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		・定期試験 ・ワークシート ・作品製作	
	【主体的に学習に取り組む態度】 30（%）	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。		・ワークシート ・授業態度 ・課題提出	
評価の方法と割合	●評価方法：定期試験（学期1回）と平常点（提出物・実習・実験態度など）で各学期の成績を算出する。 ●割合：定期試験50%、平常点50%として各学期の成績を算出する。				
教科書・副教材等	●教科書： 技術・家庭 「家庭分野」（教育図書） 「技術分野」（東京書籍） ●問題集： なし ●副教材： なし				